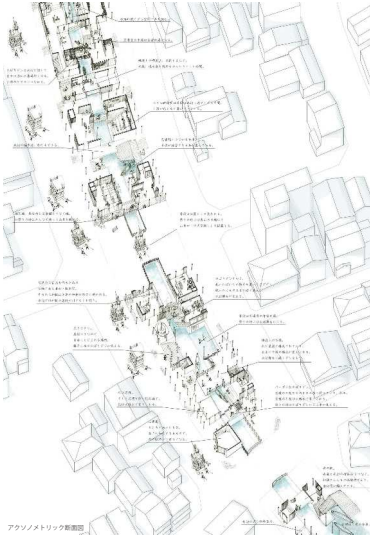

卒業設計のタイトルと概要

卒業設計タイトル：水懐の庭(すいかいのにわ)-水郷佐原における親水公民館の提案-

卒業設計の概要：「水郷」と呼ばれる水辺との関係が深いまちには、舟の行き交う風景、変化する光、風の抜け方といった水辺に寄り添う様々な要素が人々の生活と絡み合い、非日常的な美しさや懐かしさを生んでいる。敷地である千葉県香取市佐原も、古くから利根川水系の恩恵を受ける水郷のまちとして栄えてきたが、市街地化や護岸整備により、水辺との日常的な関わりは薄れてしまった。そこで、かつての舟溜まり跡地に建つ、ブラックボックス化した公民館を解体し、一筋の水路を通し、それに接するまちの人のためのパブリックスペースを再設計した。まちに今でも残る川、舟、まち並、祭りといった要素が加わっていくことで、日常的に新しくも懐かしい水辺の風景が紡がれていく。

研究旅行のテーマと訪問予定の国（都市）

研究旅行のテーマは、水と共生した暮らしを営む集落を研究することです。

私は、学部生の頃からタイの水上集落や中国の水郷古鎮、イタリアの水都ヴェネツィアといった水との関わりが強い地域・集落に強い興味を持っており、卒業設計も卒業論文もどちらも「水と人の暮らし」に関係するテーマにしようと決めていました。そして、卒業設計では日本を代表する水郷佐原で水をテーマにした設計を、卒業論文では、水辺と日本の祭り(非日常)の関わりとその変遷について書きあげました。そして、修士ではより多くの水都・水郷を訪れ、建築と水・光が作り出す独特で美しい景観や、そこに暮らす人の日常生活やハレの日の活動、水の脅威と戦ってきた暮らしの知恵等、自分の足で訪れて、目で見て、できれば長期滞在して肌で感じてみたいと思っています。訪問予定の国は以下の2つを考えています。

・中国/金沢鎮・楓徑鎮(いずれも上海市)

・カンボジア/トンレサップ湖の湖上(杭上)集落

０３１　園　佳美　　東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻